

学習の進め方

- 1・問題集を開始する場合には、必ず開始前にファイルのコピーをとり、コピーファイルをご利用下さい。問題集は過去問を除き全5回分の解答欄を設けていますが、同じ問題を同じ日に連続3回解答するのが理想です。同じ問題を同日中に繰り返すことで、「記憶」として残ります。勉強の一番の敵は、「**記憶の失念**」です。

勉強したときは覚えていても、繰り返し学習しなければ、必ず忘れてしまいます。しかし、1日1回しか解かない問題は、早くても2、3日で忘れてしまいます。完全に忘れてしまったら、それは、勉強しなかったのと同じことです。2、3日で既に忘れてしまっていることに気付かず、多くの人が新たな箇所を勉強しています。

「覚える→忘れる→覚え直す→また忘れる」のサイクルが早い人は、この試験に合格できません。

しかし、1日3回繰り返せば、「覚える→→→忘れる→→→覚え直す→→→→→また忘れる」の1サイクルが長くなります。「忘れる」までに時間がありますので、その間に新たな知識を習得し、忘れるまでに計画的に復習時間を確保することができます。

これを数回続けますと脳の「長期記憶領域」に知識が収まり、もはや失念することはありません。

- 2・テキストは参考程度に1度、2度程度の学習で十分です。概要だけ掴みましたら「**問題集を中心**」に学習計画を組み立てて下さい。受験者で全く勉強せずに試験に挑む人はほぼゼロに近いです。多くの人がテキスト中心学習を実践しています。しかし、大半は合格できません。理由は簡単です。テキストに記載されているどおりには出題されていないからです。にもかかわらず、テキストばかり見ているから合格できないのです。

水泳や野球、サッカーの教本だけ読んでいる人が試合に勝てないのと同じです。実際に泳いだことがない人、バットやグローブを使ったことがない人、サッカーボールを蹴ったことが無い人が、試合に出て最高のパフォーマンスができるはずがありません！！そこを勘違いしている人が多いのです。

サッカー教本にかじりついている日本人より、教本など読んだ事が無くても、ストリートサッカーに興じている南米や欧州の子ども達のほうが、はるかにサッカーにおいては上手です。勉強も同じです。

問題集は、ストリートサッカーなのです。実際に問題を解きながら、知識を習得していきます。

「テキストが先」で「問題集が後」というルールはありません。「**問題集が先**」でも良いのです。問題集を解きながら習得した知識を、後からテキストで確認しても良いのです。

問題集の内容がテキストの掲載されていないという方がいらっしゃいますが、テキストから学ぶべきもの、問題集を解きながら学ぶべきものがございます。すべての知識・情報がテキスト、問題集の両方に掲載されているわけではございません。また、テキストと問題集には進捗差があります。

難易度の高い試験ですので簡単な基本知識だけでは到底、合格はできません。

3・みなさんが、「合格」のためにやらなければならないのは、「**自分の能力の把握**」です。

3回連続正解できた問題は、同じ問題が本番試験で出題されても間違いません。しかし、そうでない問題は要注意です。必ず復習が必要です。今日の勉強は、昨日、間違った問題から開始して下さい。

自分自身の能力を知る術は「問題集を解く」こと以外ありません。テキストを眺めるのは誰でもできます。自分には何が不足しているのか？それを知ることができた人は合格できます。基礎問題集は基礎ですので、正解率 100%に達することが望ましいです。合格者レベルに達しますと余裕で 100%を出すことができます。

4・「問題集をやってみても、さっぱり設問の意味がわからない」という人がいます。設問の意味がわからない最大の理由は、「**法律用語の意味を知らない**」ことが挙げられます。

「債権者」「債務者」「根抵当権」「元本確定日」「第三取得者」「抵当権消滅請求」「物上保証」「物上代位」「造作買取請求」「手付金保全」「確定判決」「占有訴権」「取得時効」「時効の援用」「相殺の援用」等々、

私達が日常では使用しないような言葉が、たくさん出てきます。学校で何年間も英語を勉強しながら、英語が全く話せない人がたくさんいます。よく「文法が難しいから」と言う人がいますが、それは違います。文法などは 100 程度知っていれば十分、日常会話ができます。

英語が苦手だという人に圧倒的に不足しているのは、「単語力」なのです。「単語」を知らないから話せないのです。

宅建試験も「法律用語の意味を知らない」から解けないのです。意味さえ知っていれば、後は得意な日本語なので、設問の述べている内容が理解できるはずなのです。設問の内容さえ理解できれば、勉強などしなくても経験則から正解の解答がわかる問題が実はたくさんあるのです。

テキストでは、各法律用語の意味を説明していますが、必要ならばそれらの語句を整理しておくのも学習には非常に有効です。インターネットなどで調べた時は、調べ放しにせず、必ずエクセルやワードなどに保存してください。知識の幅が広がることで、様々な問題に対処できるようになります。

5・19 日間スケジュールは、「基礎問題」をベースに組み立てています。時間的に余裕がある人は、「実践問題」「過去問」をお勧め致します。特に「過去問」は試験前までにやったほうが良いと思います。毎年、この試験においては試験問題を作成するメンバーが公表されますが、メンバーが作成する問題文の言い回し等のクセや傾向を知っておくことは点数アップに役立つ場合があります。

「2 週間前スケジュール」も提供していますが、そちらは、過去の「出題率」です。

出題率の高い科目を徹底履修することで効率よく点数につなげることができ、また、無駄な勉強時間の省略に有効です。

6・最後になりますが、問題を解く時は、単純に「設問と解答を暗記」しただけでは試験に勝てません。「理解」が必要です。「なぜ、○(×)なのか？」その解答根拠は法律条文や判例等に 있습니다。どの法律のどの項目にどのように規定されているからこそ、○(×)である、といった理由付けが必要です。そのために法律条文ファイルをご提供しています。勉強の時は関連条文ファイルを合わせて開示しておき、必要があれば、キーワード検索をして上手にご利用下さい。

日 程	科 目	19 日 間 学 習 内 容
1日目	権利関係	テキスト1ページ～20ページ、SPM問1～問100(連続3回)
2日目	権利関係	テキスト21ページ～40ページ、SPM問101～問200(連続3回)
3日目	権利関係	テキスト41ページ～60ページ、SPM問201～問300(連続3回)
4日目	権利関係	テキスト61ページ～80ページ、SPM問301～問400(連続3回)
5日目	権利関係	テキスト81ページ～最終ページ、SPM問401～問500(連続3回)
6日目	宅建業法	テキスト1ページ～10ページ、SPM問501～問600(連続3回)
7日目	宅建業法	テキスト11ページ～20ページ、SPM問601～問700(連続3回)
8日目	宅建業法	テキスト21ページ～30ページ、SPM問701～問800(連続3回)
9日目	宅建業法	テキスト31ページ～40ページ、SPM問801～問900(連続3回)
10日目	宅建業法	テキスト41ページ～最終ページ、SPM問901～問1000(連続3回)
11日目	法令上の制限	テキスト1ページ～17ページ、SPM問1001～問1100(連続3回)
12日目	法令上の制限	テキスト18ページ～35ページ、SPM問1101～問1200(連続3回)
13日目	法令上の制限	テキスト36ページ～最終ページ、SPM問1201～問1300(連続3回)
14日目	税・その他	テキスト1ページ～17ページ、SPM問1301～問1400(連続3回)
15日目	税・その他	テキスト18ページ～最終ページ、SPM問1401～問1500(連続3回)
16日目	税・その他	SPM問題集「全不正解」復習、SPM問1501～問1600(連続3回)
17日目	総復習	SPM問1～問500 黒塗りでできなかった問題
18日目	総復習	SPM問501～問1000 黒塗りでできなかった問題
19日目	総復習	SPM問1001～問1600 黒塗りでできなかった問題
本番試まで以上の繰り返し ※疑問点は必ず講師に確認！		